

## 懇親會後の所感

工学博士 川上義弘

懇親會の席上私は御招待を受けた各位が立派な御方ばかりなので自分の業蹟を省み遂々御挨拶の際たゞ年を取つたばかりに御招待を受け云々と申しまして御推薦下さつた御方に對し又兩學會の會長殿に對し誠に申譯なく存じましたので遅れ走せながら自分の行いたる研究のことやら（初めは軍の研究所に居つた關係上次で神戸製鋼所時代は大變に多忙であつた爲、又終戦後は追放となり餘り發表することが出来なかつたので）兩學會に對する關係を述べ若き各位に對し御招待を蒙つた事情を良く了解して頂き同時にこの機會に於て種々御世話になつた皆様の御名前を認めて感謝の意を表し度次の如き文を綴りました。編集委員の各位が御許し下さるなれば雑誌の餘白にでも御掲載願えれば幸甚であります。

私は職務上種々の研究に従事致しましたが一番初めは鐵鋼や合金類の分析及顯微鏡組織に就き興味を持ちました。前者の研究は白倉貞熹君との合作にて砲兵工廠の内規を基として上司の御許を得て其結果を「鐵と鋼」誌上に發表し後者は現日本鋼管 K.K. 參事高島徳三郎氏の御助力に依り當時困難と認められたウキディヤ、クロム鍍金及メタリコンの組織等に就き研究し同誌上に發表致しました。次に日本刀の研究、砂鐵の研究、メタリコン、ウキディヤ等の研究を致し其一部を「鐵と鋼」誌上に發表致しました。本日茲に居らるゝ梅津博士（七藏氏）も當時砂鐵の研究に就き其の一部を擔當致されましたのであります然し重要な研究と思ひますのは耐鋳鋼と輕合金及ピアノ線の三つの研究でありまして、其内耐鋳鋼の研究は最も初めに行つたもので萬年筆のペン、ナイフ、食卓用具、日本刀其他兵器並に化學機械の製造に聊か貢獻することがあつたことと信じます。此の研究には寺門茂氏が大變御盡力下されました。其の次は、輕合金の研究であります先づアルミニウム合金の研究、次でマグネシウム合金の研究を本邦に於て最も早く行いました（私の研究は實用的研究で學理的研究はそれより早く行つた方があつたかも知れません）其の研究が少し纏まつた頃本多先生が懇々研究所に御出でになつて、この研究は大切なこと故是非自分の研究所の仕事としても行い度いのであるが人の關係にて餘り進まぬ故十分努力する様にと御督勵下されました。次に金屬研究所の囑托となりまして時々先生に結果を申し上げ同研究所に講演にも参りました。尙同合金は軍部に於ても相當實用に供せらるゝ程度になりましたが其後私が研究所長として神戸製鋼所に参りましてから同會社の努力に依りまして大々的に實用せられ航空機の製造に資するところ大なるものが有つたと信じます。之れ誠に本多先生の先見の明と存する次第で、當時輕合金迄に先生の御力が加わつたことを茲に公表致します。この研究には目下名古屋に居ります戸賀七郎氏、故人となつた豊原彰氏並に本日御出席の石田博士（四郎氏）の御盡力に依るもの多く深く感謝する次第であります。此の様な關係にて本多先生には御愛顧を受け先年熱海にて行われました先生古稀の御祝には年長のことも有つたでしょうが總代として御祝辭を述べさせて頂きました。又耐鋳鋼の研究に際しては村上先生の初期の Cr 鋼の御研究が大に參考となりまして、その後各種の會議に於ても絶えず交渉があり富山に於て催されました先生の還歴の御祝にも御祝辭を述べさせて頂きました。

最後にピアノ線の研究であります、この研究は神戸製鋼所に於て行われ私は日本學術振興會の委員として氣球の繫留索として當時採用しつゝあつたスウェーデン製線材にて作つたものよりも強力なる鋼線の要望があり依先生の御推薦にて昨年物故せられました渡邊博士（三郎氏）と私とが研究擔當者として御指名を受け渡邊博士は少量の Ni を含みたる鋼材、私は純炭素鋼にて出發し現場の技術者の御盡力は元より、當時部下でありました高尾善一郎氏及吉野政次氏等の御盡力に依り國産原料（滿洲を含む）を以て優秀なるピアノ線が生産せられ繫留索は勿論戦時中スウェーデンの材料が缺乏しても航空機用弁用材料にも事缺かざるに到りました。其結果の大要は「鐵と鋼」誌上に發表致しまして當時御盡力下さつ各位は御褒美を頂かれ高尾善一郎氏は今回も又鐵鋼協會より賞牌を頂き小生の悦び之に過ぎたるものはありません。其他關係致しました研究の内、防弾鋳鋼の研究も高尾氏及市來崎進氏及現場の各位の御盡力に依り優秀なものが出来ましたが終戦と共に多量生産一步手前にて實用を見ず、外に低温に於ける鋼の靱性及代用鋼の研究等故上田滿正氏の御骨折に依り成果を挙げ前者は日本金屬學會の特別講演會に於て發表致しました。

桂先生は恩師でもあり依先生が御洋行中故井上博士（克己氏）の後を繼ぎ東大にて講義をする様に御推薦を受けまして大正十三年より名古屋工廳長として轉出する迄従事致しました。其後を田中前會長殿が引受けられました、之れが先程山岡前々會長殿より川上先生と御紹介下さつた原因と思われす。同氏は常々其の御立派な御行爲に就き敬服致し

居る關係上右の如く呼んで頂いたことが非常に嬉しく存じました。尙當時の教え子諸君がそれぞれ立派になられたのが誠に樂みにて此點特に桂先生に多謝する次第であります。又金子先生は私が若き時（英國より歸朝後間も無く）初めて九大を拜見に参りました時英國にて親交を結びました動物學の權威大島博士（廣氏）を呼んで頂き大變御馳走になり其後種々御厚情を給わり御親切なる御心持に對し常に感謝致して居る次第であります。なお田中館先生には若き時其の御令弟より物理學を教えられ研究に興味を持つ様になつた關係上時々御目にかゝつて居り、九十六歳の御高齢にて尙且つ今日の御元氣なる御様子を拜し自分にも更に健康上の一大好目標が出来たことを悦んで居ります。最後に西村博士から御話が有りました齋藤先生にも大變御厄介になり、此の席に御見えにならないことを非常に淋しく思います。若き時先程申上げましたアルミニウムの研究時代日本アルミニウム株式會社に行かれアルミニウムの研究ならば東京の川上大尉に聞く様にと申された由、只今同社にて大に御活躍の石川俊貞氏から承り其の御氣持に今も尙感謝致して居ります。尙神鋼の研究所長になつたのも元陸軍大將緒方勝一氏と先生の御推薦もあつたことによると信じます又神鋼時代研究所長は勿論製鋼部長次で特殊鋼部長と重責を與えられ研究と現場方面に就き一貫して自由に活動が出来ましたことを省みて、今日神鋼の相談役當時の淺田專務（長平氏）及當時の常務現神鋼造機株式會社社長土屋行藏氏に深く感謝する次第であります。

次に兩學會との關係であります。鐵鋼協會の方は席上申述べました様に創立當時より關係致しまして名古屋に参ります前に依先生より理事に推薦したから引受ける様にとの御話がありましたが先輩の御方もあり、餘り若くて會の權威にも關すると申述べ御辭退の上ずつと評議員でありましたが神鋼時代長く關西支部長を勤め終戦の前年東京に歸り監事となり、終戦後追放により今日に至りました。又日本金屬學會の方も初めより御厄介になり神鋼當時現在の理事の様な役にて西村支部長殿に協力し又本部の受賞者選定委員にもなりました。斯様な關係で今回兩會長殿より年齢の關係もあり御招待を辱うしたことゝ存じます。其前日研友會の會合の際海野博士より健康上の注意を聞かれ、慾を節するにありと丈け申上げましたが、此の外毎日の仕事を樂みに寸暇を惜みて働くことが原因の一つと存じます。或る結婚式の席上人間には三つの愉快な時代があるとのことを聞きました。其内の一つは幼時母親に愛せられし時代、次には新婚の時代、最後は功成り名遂げて悠々自適する時代がそれである。そして私には此の最後の時代がなかなか来ぬと思つて居つたのであります。今回の御招待にて氣分丈けでも、この愉快な時代が一時に來た様に感じまして皆様の厚き御好意を深く感謝する次第であります。文中多少言い過ぎたことも御座いまいしょうが之は私の修養が未だ足らぬことゝ御寛容の程を御願ひ致します。（註、川上博士は元陸軍中將）